＜国際会議 Physor2006 報告＞

～　PHYSOR-2006 に参加して　～

名古屋大学大学院工学研究科マテリアル理工学専攻
修士一年 多田健一

国内の学会に参加した経験はあったのですが、国際学会はもちろん初めてで、きちんと発表できるのか非常に不安でした。

発表前日は何かしていないと発表のことが気になって仕方がなかったため、気を紛らわせるために一日中動き回っていました。また、発表当日は非常に早く目が覚めてしまい、二度寝するにも寝られる精神状態ではなく、ずっと発表練習をしていました。

発表当日に Speakers Breakfast があることを知らなかったため、自分ではかなり早めに行ったつもりだったのですが、実際には他の発表者の方々よりも遅くなってしまいました。また、突然 Speakers Breakfast があることを知らされたため緊張してしまい、何をしてよいのか分からずただ席に座っていることしか出来ませんでした。今思えば他の発表者の方々ともっと話しておくべきだったと後悔していますが、その時は同席している方々から振られた話に返答するだけで精一杯でした。

発表の時間が近づくにつれ、自分の発表のことが心配になり、他の方の発表に集中することが出来ませんでした。

発表では周囲を見ながらゆっくり話そうと心がけていたのですが、発表前半はうまく気持ちを落ち着かせることが出来ず、同席していた他大学の学生に「前半はかなり目が泳いでいた」と言われるくらい視線を動かし過ぎてしまいました。後半になるにつれ徐々に緊張も解け、周囲の人々の反応を見る余裕が出て来たのですが、発表内容を理解してくれているのかどうかあまり分かりませんでした。

発表が終わり質問の時間になった時、質問がきちんと理解出来るのか、そして質問にきちんと英語で答えることが出来るのか不安でしたが、座長の方が 2,3 秒程軽く左右を見回しただけで質問を打ち切ってしまったために質問がないまま発表が終わってしまいました。質問が無くて助かったと思う一方、質疑応答が一番の不安材料でしたのでそれがないまま終わってしまい拍子抜けしてしまいました。

セッション終了後は気分も大分落ち着き、また発表に関する心配もなくなったことで、他の発表者の方々の発表を安心して聞くことができました。

他の方々の発表を聞いていると、発表者の母国語が英語の発音に如実に表れているなと感じました。もちろん、非常に流暢な発音をされる方もいましたが、何も知らずに音だけ聞いたら中国語にしか聞こえないような発音をされる方などもいて、自分の発表の時は他

の人にはカタカナ英語のように聞こえていたのだろうかと気になりました。

今回は初めてということもあり発表するだけで精一杯でしたが、もしまた発表する機会があるならば今回の反省を踏まえ、他の発表者の方々とのコミュニケーションや発表の発音などをより向上させたいと思います。

東北大学大学院工学研究科量子エネルギー工学専攻
修士一年　吉川　崇倫

9 月 10 日から 14 日にかけて，カナダのバンクーバーにて開催された PHYSOR に参加した．私自身は，国際会議はおろか国内の会議にすら参加経験が無く，さらには海外へ渡航した経験すら無かったため，正に右も左もわからないといった気持ちで挑むことになった．

バンクーバーに到着し，空港から市街地までは直通バスで移動した．バスから見たバンクーバーの街並みは美しく，郊外の住宅地ではどこか日本の田舎町の雰囲気に通じるものすら感じた．今回は単身での参加ということもあり，懸念していたことのひとつに，治安の問題があった.カナダの治安は比較的良いと聞いてはいたものの,やはり不安であった．しかし実際にバンクーバーの街を歩いてみると,夜中でも人通りが多く,人々も穏やかで,平和そのものだった．また，カフェが非常に多いことも印象的だった．それにもかかわらず，どこのカフェもたくさんの人でにぎわっており，街中がいつも穏やかな活気に満ちているという印象を受けた．

PHYSOR の開催期間は 5 日間だが，実際に発表が行われているのは 4 日間で，自分の発表は 3 日目であったため，それまでできるだけ多くの発表を聞くように努めた．自分の興味のある研究や関連した研究について聞きたいということももちろんあるが，それ以上に発表に慣れたいという思いがあった．それは，母国語でない言語での発表，コミュニケーションの難しさを思い知ったからである．というのも，国際会議は様々な国，地域から参加者が集まるため，それぞれの英語が千差万別であるためである．例えば，ロシアやフランスの方の英語は，酷く巻き舌で，中国の方は基本的にアクセントが尻上がりである．個人的には，中東の方に多い独特のイントネーションが最も聞き辛かった．そのため，自分の発表の際に，ディスカッションでの質問を理解できるか，きちんと聴き取れるのか非常に心配だった．

3 日目，いよいよとなった自分の発表は本当に無我夢中だった．本番は意外に落ち着いて発表できたが，実際のところは，自分の発表時はおろか同じセッションでの他の方々の発表についてもほとんど覚えていない．懸念していたディスカッションでは，一応質問に

は答えられたものの，少し勘違いをしてしまった上に，拙い英語でどれだけ伝えられたのかもわからない．しかし全体として見れば，初めての国際会議は成功に終わったと思う．

今回 PHYSOR に参加して，コミュニケーションの難しさ，大切さ，そして楽しさを知った．もともと知り合いの方を通じて，あるいはレセプションなどで様々な方と面識を得ることができた．日本の方はともかくとして，それ以外の方と英語で研究のことなどを話し合うことは非常に難しいことではあったが，同時に伝わる喜びも感じることができた．このことは自分にとって良い勉強となったし，何より楽しかった．

最後に，今回の PHYSOR を無事に終えることができたのは，ご指導くださった教官をはじめ諸先生方，先輩方のご協力によるところが大きく，到底自分ひとりの力ではここまでできなかった．この場を借りてお礼申し上げます．